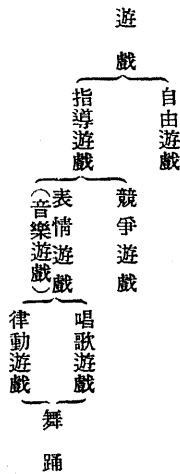


保育事項としての遊戯に就いて

目白幼稚園 和田 實

五つの保育事項其ものが、幼児の遊戯生活の分類である云ふ考へからするに、保育事項の中に、遊戯云ふ名前を置くことは、一寸妙な感じがしますが、是は便宜上の名前で、他の四つの保育事項に含まぬものを含ませた雑種なものご解すればよいでせうが、然らば其雑種なものの中に何んなものが、含まれるだらう云ふに、小學校の先生は



上の表の様に分類して居る。保育事項としての遊戯は保育の課程として取扱ふ可きものであるから、自由遊戯でないことは、判り切つたことである。又、小學校に於いての遊戯は體育教材云ふ迄もないことである。又、小學校に於いての遊戯は體育教材として取扱ふものであるから、従つて、保育に直接効果あるもののみを扱つて、其他のものを閉却するのは、當然のことであるから、前記の分類にも、競技と舞踊だけに限つて居るのも亦然る可きもの云はねばなりません。併し、保育事項としての遊戯は、必ずしも、體育効果のみを求むるものでもありませんから、遊戯の種類を競技と舞踊のみに限る理由はありません。然るに、従來何處の幼稚園を參觀して見ても、遊戯云へば舞踊に非ざれば競技で、舞踊と競技の外は何もしていません。是は果して適當なものでせうか。私の考では、保育事項としての遊戯は次の三つのものが、尠くもある可きものと思ふのであります。

競争的遊戯(競技)
 保育事項としての遊戯
 音樂的遊戯(舞蹈)

模倣的遊戯(劇的模倣)

劇的の模倣遊戯云ふのは色々な、断片的な模倣動作を統合して、一つのままとつた事件云ひ得る様なものを模倣するこゝで、最も恰好なる實例は彼の飯事まじごであります。「飯事」は多くは自由遊戯として、日常幼児に因つて、能く遊ばれて居るものではあります、之を少し統制して、保姆の指導の下に大掛りに遊ばすこゝが出来らば、立派な保育事項云ふ可きだらうと思ひます。其他、桃太郎遊び、花咲爺遊び、こぶ取り遊びなき何れも、立派な劇的遊びであつて、然も教育的効果は充分に得らるゝこゝではないでせうか、勿論、幼児の事であるから一つの劇を、始めから終り迄、完全に行らせる譯には行かぬかも知れませんが、其幾分を部分的に行ふこゝは容易な事でもあるし、幼児の好むこゝろではないでせうか、此點に就いて、實際の保育者は大に研究して見る必要があると思ひます。殊に、唱歌が問答體になつて居るものなどは、人を分けて問答的に唱はしむるばかりでなく、今一步進んだ劇的場面として、行はしむるこゝの必要もありはしませんか、尙、進んでは、童話を劇の筋書として取扱つて見るのもよいと思ひます。是は随分、實行して居る所がある様です。小學校では盛んに行つて居るこゝですが。

斯様にして、模倣的に、断片的に、劇の動作が練習されて行く中には、小さなものは、ままとつた劇なるこゝが出来さうと思ひます。假令、其處迄は、行かないにしても、此種の遊戯の必要なこゝは云ふ迄もないと思ひます。動作を通じての理解は、言語や觀察以上の感銘を持つに違ひないのですから。

保育事項としての遊戯の一部として、次に、今一つ注意す可き事件があります。夫れは音樂的遊戯即ち舞蹈のこゝです

が、是には、律動遊戯即ち唱歌を伴ふことなしに、單に音樂だけに振りの付いたもの、唱歌を伴にするもの二つの部分があることは讀者諸君の疾くに御承知の通りですが、其詩歌音樂に伴ふ「振り」即ち表情的動作が、幼兒の自由に行はしむる場合、教師の振り付けたる動作を忠實に守らしむる場合とあります。リトミック主義の人は前者に重きを置いて、模倣的な表情的遊戯を排する向もありますが、一般には、既に振り付けられた表情的遊戯を模倣的に行はしむることが多い様です。是は一概に何れとも限つて仕まふことは正しくないと思ひます。幼兒の出來る程度のもは幼兒自身、自由な動作を付けしむることは決して悪いことではありません、否、却つてリトミック主義から云へば夫れが自然だとも、云へるでせう。併し、然れば、模倣的表情的遊戯も決して、悪いことは云へません。所詮、幼兒の發達は模倣の範圍を遠く脱出するこの出來ないものです。否、或度迄は模倣の中に發達あり、云はねばならぬものですから、模倣的遊戯を排斥するなきは、飛んでもないことです。従つて、此二つの方面に夫れ／＼發達して行くことは當然のことだと思ひます。

所で、此模倣的動作即ち所謂「振り」なるものに色々の種類があつて、私共は從來、其取舍選擇に迷はされたものです。或舞蹈教師は子供本位に振り付を考へず、専ら人に見て貰ふこと、即ち子供を踊らせることに困つて、大人の歡心を得んことを主として振り付を行ひ、随分、殊更めいたポーズを振り付けて居るものがあります。而して曰く「斯くの如く振り付けることに困つて、弟子の入門を増す、バンの爲めに止むを得ず」と、甚だしきは振り袖を着せ扇子を持たしなきて、從來の大人の日本舞蹈其儘を行はんとするものさへあります。沙汰の限りであります。勿論從來の日本舞蹈（吾人は時代舞蹈と呼ぶ）必ずしも悪いことは云へませぬ。併しながら普通教育の基礎たる可き幼兒教育の材料としては衣服を改めざれば行ひがたき舞蹈を採るの必要何れにありやと疑はざるを得ません。又教育材料としての舞蹈は何處迄も幼兒本位でなければなりません。人に見せる爲めに教育するのではない。従つて、ステージに上すことを最後の目的として教ふ可きもので

はない。其行ふ可き動作は何處迄も幼児の發達上に必要な動作でなければなりません。

近來舞踊の先生は頗る多い。吾人の知つて居るだけでも十指を屈するに難くありません。が併し、多くは人に見せんが爲めの舞踊即ちステージ舞踊も稱す可きものが多くて、眞に、教育本位に考へられたものは誠に尠くない。概はしい次第です。保育の實際に當るものは材料選擇の際、大に注意す可きであります。

併し以上の諸點は注意して之を見れば、吾人の様な素人とらうとにも、之を判斷する可き、決して、困難ではない。従つて、注意を要する可き云ふだけで、取捨に迷ふ可き程の可きでもありませんが、茲に一つ、吾人に判斷の仕兼ねる可きが一つあります。夫れは「振り付」の仕方に二つの流れがある可きです。即ち或舞踊教師は振り付ける動作を實際生活上の諸動作からして模倣的に持つて來やうにするに反して、他の舞踊教師は動作其ものゝ自然の美を強調する可きに困つて氣分を出さうと務めて居る。前者は之を營生式模倣式の「振り付」を稱す可く、後者は審美式表徴式の「振り付」を云ふ可きでせうか、勿論、一切の「振り付」を何れか一方に限る可きではありませんが、振り付ける人に困つて、自然何れか一方に片寄る可きは止むを得ない様です。殊に、其人の出身の異なるに連れて、片寄る傾向も違ふ様です。日本舞踊即ち主として時代舞踊から出發した人の振り付けは營生式模倣式に傾き、西洋舞踊即ち新舞踊を主とする人は審美式表徴式の振り付けをする様です。(是は勿論、吾人の管見で、確定的の研究ではありませんが)従つて、同じ歌詞又は曲に、二つ以上の振り付があつて、何れを採る可きかを云ふ可きになる可き迷ふ可きが、往々にしてあります。勿論、實際には人々の好惡を云ふ可きがあり子供への難易を云ふ可きもある可きので、其點からして、然しても迷はず、何れかに極めて仕舞ふものゝ、理論的理由としては頗る薄弱なる感を持つ可きが、屢々あります。

音樂にも、同様な事がある様です。描寫曲と交響樂との差違が、是れを似て居る様です。自然描寫を主とした音樂が、

組織された交響樂に比して幼稚なものであるなら、同様な意味で、營生式模倣式の舞踊は審美式表徵式の舞踊に比して幼稚なものである云ふことが出来るでせう。若し果してそう云ふことが出来るなら我幼兒教育上に採用す可き舞踊は前者であつて、後者でない云ふことが出来るでせう。何となれば幼兒の踊る可きものは大人の夫れよりも幼稚であり、原始的であつて然る可きものであるからであります。併し是に就いては、まだ充分な研究をする機會がないので、確然たる意見が立ちません。世の舞踊に明かなる人の教を乞ひたいと思ひます。

實際、方々の幼稚園に就いて、聞いて見るに、何處でも、誰のがよいか取捨に迷つて居る様です。中には舞踊を教育的に採擇するのではなく、之を一種の教授資料として父兄の歡心を得、課外教授の弟子を多く集めることに因つて、授業料の收入を得て、幼稚園經營の一助として居る所もありますが、是等は茲に論議す可き筋合のものでありませんから、本論の對象はしたくありません。吾人は、眞に、教育的の幼兒舞踊云ふものが、果して何んなものであるかを明かにしたいものと思ふのであります。讀者諸君の中には隨分舞踊に就いて研究されて居る方々も居らつしやることだらうと思ひます。大に教へて戴きたいものです。